

令和6年6月30日

272号

# 北の療育

● **報告** 令和6年度の事業計画(概要)について

● **特集** いのち、そして普遍的な人権とは  
— 障害者権利条約の総括所見から

「人権」について改めて考える— / 松尾彰久

# CONTENTS

2024.6

## ● Be-ねくすと活動紹介 ————— 大川 和宏 — 47

## ● つつじの里だより

・活動紹介：つつじの里新年もちつき大会／冬まつりを開催！作品展示振り返り — 49

## ● らせん

・理学療法ってなあに？ ————— 山本 翔太 — 51

## ● みち

・法人設立から4年目を迎えて ————— 齋藤 忠義 — 53  
特定非営利活動法人 とらいあんぐる事務局通信

・「新体制になりました」 ————— 長野 聡幸 — 55  
美幌療育病院父母の会事務局通信

・「全施連が大きく変わる」 ————— 植村 規 — 57  
つつじの里利用者と歩む家族の会事務局通信

## ● サービス向上委員会報告

・北海道療育園・美幌療育病院（ぴぼろを含む）・つつじ里 ————— 61

## ● ご厚意ありがとうございます

・寄付金一覧・物品寄贈一覧 他 ————— 63

・職員異動一覧 ————— 63

## インフォメーション

・安倍洋子名誉顧問 ご逝去されるー35年間ありがとうございましたー ——— 22

・作業療法作品の紹介「キラキラビーズのれん」／

栗屋喜信さん、高瀬繁男さん、石井明美さん、大橋清子さん ——— 31

・美幌療育病院で太陽光発電設備（自家消費型）を導入／加藤秀行 ——— 44

・＝コラム＝見えない重荷を分かち合いながら／蒔田明嗣 ——— 45

・ブックスタンド

「見捨てられる<いのち>を考えるー京都ALS囑託殺人と人工呼吸器トリアージからー」（晶文社）

安藤泰至、島蘭進編著／川口有美子、大谷いづみ、児玉真美著 ——— 59

# 北の療育 272号

---

## ● 巻頭随想

・「知る」とやさしくしたくなる ————— 林 時伸 — 1

---

## ● 報告 令和6年度の事業計画（概要）について

・将来に向けて新たな一步を踏み出すスタートの年度としたい ——— 3

---

## ● 特集 いのち、そして普遍的な人権とは

—文化の違いを乗り越えて、新たな地平に辿りつけるか—

<第1回>

・障害者権利条約の総括所見から「人権」について改めて考える

—西洋と日本の文化の違いについて ————— 松尾 彰久 — 23

---

## ● グラビア・春が来たよ！

32



## ■ ワークセンターぴぼろ

### ● あすなる通信

・バレンタインデー、ホワイトデー、ひな祭り 他 ——— 内田 久勝 — 36

### ● ぴぼろだより

・新年昼食会、節分、ワークセンターぴぼろ開設21周年記念式 他 — 浦野 紘史 — 37

---

## ● サンルーム・冬から春の療育活動

・コロナ前の華やかな活動に近づけ、利用者さんの笑顔が増えていく事を願いながら

— 北海道療育園 — 前井 貴善 — 39

・コロナが落ち着きつつある中での療育活動について

— 美幌療育病院 — 茂呂竹 海 — 41

---

## ● 滝川通園「たんぽぽ」だより

・リトミックを楽しむ！ ————— 谷山 智子 — 43

---



## 「知る」とやさしくしたくなる

林 時 仲

私たちはどうしたら他人を尊重し、他人に対してやさしくなれるでしょうか。ここ数年、職員による職員への不適切な言動や事案を耳にすることが増えており、私はその答えを探しています。

福祉の現場において、利用者や同僚にやさしくなれない要因は多々あります。ひとつに働きにくい職場環境です。慢性的な人手不足、学習の機会や経験の不足、人間関係の悪さ、不適切な人事や不十分な評価・給与など職場環境に問題があるとそちらに気が向いてしまい、他人にやさしく出来ません。愛情に関わる脳機能の未熟や低下も要因です。他人に対してやさしい行動をとるためには、その行動を司る脳の中樞が機能しなければなりません。それには愛情ホルモンと言われるオキシトシンが脳の視床下部で作られて、脳内に直接分泌されて、あるいは下垂体から血液中に分泌されて、脳の中樞にあるオキシトシン受容体に結合する必要があります。オキシトシンとオキシトシン受容体は様々な要因で増減し、例えば、お母さんのオキシトシンは赤ちゃんがお母さんのおっぱいを吸うことによって分泌が促進されます。

職員が他人にやさしくなるためには、やさしくなれない要因を一つひとつ取り除いていくことです。職場環境と脳機能は変えることができます。職場環境の改善は職員の満足度を上げることに尽きます。知識と経験が得られるように学習や教育の機会を設定します。上司と部下、同僚どうし、部署間の人間関係を改善するために風通しを良くすることです。秘訣は上司が部下の話を聴くことと管理者が現場を見ることです。そして、頑張っている人が認められ、評価された人事と給与でなければいけません。衣食足りて礼節を知る、は正しいと思います。オキシトシン分泌

を促すためには、これも母子関係からヒントを得ることが出来ます。お母さんの脳内のオキシトシン分泌は、吸啜刺激のほかに、お母さんが赤ちゃんを見る（視覚）、撫で撫でしたり柔らかい体を抱きしめる（触覚）、赤ちゃんの泣き声を聞く（聴覚）、赤ちゃんのいい匂いを嗅ぐ（嗅覚）などお母さんの五感から入る信号によつて促進します。この五感を介したホルモン分泌促進は私たちでも可能です。日本の建設現場では作業開始前に作業員どうしが肩揉みをします。ラジオ体操の後、縦に並んだ状態で前の人の肩を叩いて揉みます。一定時間肩叩きと肩揉みをしたのちに、次は回れ右をして前の人の肩を叩いてマッサージするのです。こうすることで見知らぬ作業員の中に一体感が生まれるのだそうです。脳内ではオキシトシンがバンバン分泌されているはずですが、「お疲れ様」と声掛けをしたり思いを込めながら行くと、オキシトシン分泌はより豊かになります。当園でも出来そうですが、決して憎いからと相手の首を絞めてはいけません。

そして、もうひとつ。他人にやさしくなれる最良の方法は、相手を「知る」ことです。私たち福祉の世界にいる者は、障害と聞くと「できないこと」ばかりが目についてしまい、その人の「できること」や「良いところ」が目に入らない傾向にあります。そのため私たちは同僚を「できる、できない」で評価しがちであり、上司は部下を褒めることが苦手です。そこで私は職員の皆さんに相手の背景や良いところに目を向けることを提案します。今、目の前に利用者さんがベッドに臥床しています。彼には入所に至るまでの経緯と長く園で暮らしてきた歴史があり、彼を生み育て、幸せになることを願いつける両親がいます。彼を世話している職員には一人息子がいて彼女は立派に子育てをしています。別の職員は再雇用職員として彼の経験を現場に還元しています。利用者さんや同僚の見えないところに目をやると一人ひとりが尊い存在であることに気付かれます。そこに気が付くと不思議と相手のために何かをしたくなりませんか。「知る」とやさしくしたくなる。おそらくこの時も脳内ではオキシトシンがバンバン分泌されているはずです。

### ● はやし・ときつぎ

社会福祉法人北海道療育園・理事／北海道療育園・園長・医師